

# Ⅲ 学 園 生 活



「開学記念駅伝大会」

参加チームが年々減ってきている。これも時代の趨勢か？

# 1. 学生生活

学生生活では、開学時に較べ細かに学生のニーズに対応するようになり、特に法人化後は全国の各大学でその傾向は顕著で、本学でも同様である。また国等における授業料の超過免除や奨学金返還免除制度の変更があり、前者は苦学生の多い本学への影響は大きい。後者の制度は始まったばかりである。また「何でも相談窓口」が設置され、教育環境整備も徐々に進んでいる。

## 1. 経済的支援：授業料免除

法人化前は、文部科学省が各大学に設定する授業料免除比率（授業料収入に対する比率）に対し、本学は全額免除比率一杯の免除と適格者を超過申請し、後者は半額免除が認められていた。法人化の平成16年度（'04）以後は、後者の超過免除がなくなったため、授業料免除者の数が大幅に減少する事となった。全体の免除者数減の緩和のため、免除比率分の全額免除を全額免除と半額免除の比率を7対3に設定して免除したが、全体の免除者数は平成15年度（'03）468人に対し16年度308人と減少する事となった。そのため17年度に国際交流委員会から学生生活委員会に対し、留学生の免除者数の減少数が多いので、考慮して欲しい旨の要請があったが、学生生活委員会は、特に留学生と日本人学生を区別して決めていないこと、この方式での免除者の決定は2年目であり、3年間行なって再検討する旨回答が行われた。このように授業料免除有資格者の多い本学は、免除希望者の対応に苦慮をしている。

## 2. 経済的支援：奨学金

学生への奨学金の貸与は、これまで日本育英会により行われてきたが、平成16年度（'04）の組織変更により日本学生支援機構から変更になった。またこれまで長年行われてきた一定期間教育研究職に就いた者を対象としてきた奨学金返還免除制度が改正され、貸与終了時（大学院修士と博士修了時）に、学生側からの免除申請により、学業が優秀な場合に免除対象者になることとなった。これまでの本学の平成17年度奨学金の受給状況は、748

人（在籍者数の37.2%）で、若干増加傾向にあり、新制度による返還免除制度は進行中で、17年度該当者は1名、本格化した18年度の修士の本学からの申請は31名である。

## 3. 学生サービスの充実

近年、学生も各種の社会的な問題にさらされる機会も多くなっている。一時見られた新興宗教への学内や寮での勧誘は最近聞かれないが、消費者問題や交通事故、学習上の悩み等、学生が抱える多様な問題に、早くかつ総合的に対応する「何でも相談窓口」を平成16年度に学生課に設置し、それに関連して相談に対応する教職員間の連携を図るため、学生課「何でも相談窓口」担当、体育保健センター看護師、カウンセラー等で構成する「学生相談担当者連絡会」を設置した。また全国的に公共施設等のバリアフリー化が図られ、これまで本学にも障害を持つ学生の入学があり、施設的には売店への通路確保のためのエレベータ設置等の対応が個別に図られてきた。17年度から教務や学生生活等の相談のサポートが可能ないように、障害を持つ学生への「チューター制度の導入」を行なった。施設的には、今後本格的に大学キャンパスのバリアフリー化を進めるため、「バリアフリー化推進計画」の策定の検討を16年度の環境保全・エネルギー対策委員会で策定し、緊急に整備が必要な部分の整備（C3棟1階身障者用トイレの設置）を行い、今後引き続き推進計画の早期の実施を図ることになった。

## 4. 教育環境の整備

これまで可能な範囲で教育環境の整備が行われ、A1棟とA2棟建設時には講義室に空調装置の導入が行われたが、平成12～16年度に既存のA棟講義室にも空調装置を導入し、教室環境の整備が図られた。また16年度から導入の室への課金制度の費用を、17年度から開校時からの建物の補修等に使えることとし、人の出入りの多い低層部を中心に壁の塗り替え等のキャンパス全般の教育環境の整備が行われた。

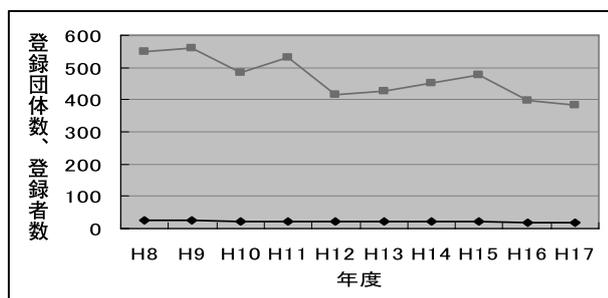
## 2. 課外活動

### 1. 総部会

課外活動を統括する学生の組織として、昭和58年度（'83）に総部会が設置された。総部会の主な任務は、課外活動全体の連絡・調整であるが、学友会から配分される課外活動後援会費の適正な運用、学友会主催の新入生歓迎行事、開学記念駅伝等への協力もその任務となっている。ちなみに平成17年度の課外活動後援会費の総額は、205万円であり、予算的にもたいへん厳しい状況である。

### 2. 体育系活動団体

平成17年度に登録された体育系活動団体数は17団体であり、学部・大学院生を合わせた登録者数は、384名となっている。この10年間の推移を見ると、登録団体数で10団体（27団体→17団体）、登録者数で約170名（559名→384名）の減少になっている。現在登録されている団体は、空手道部、武道部、少林寺拳法部、柔道部、剣道部、テニス部、硬式野球部、軟式野球部、サッカー部、ラグビー部、陸上競技部、バレーボール部、バスケットボール部、卓球部、バドミントン部、水泳部、トライアスロン部である。一クラブあたりの登録者数は平均23名で、一部のクラブを除くと全体的に部員不足となっている。



活動内容を眺めると、学生連盟に加入している団体は8団体で、全体の47%である。学連に加入し、リーグ制を採用している競技種目の場合、ほとんど最下位リーグに所属している。ラグビー部は、現在3部リーグ（全4リーグ制）であるが、過去には1部リーグで活躍したこともあり、本学のクラブの中では例外的な存在と言える。

学連へ登録していない団体の活動は、地区協会主催の大会や市民大会が主な活動場所となっており、対外的な活動は限られたものとなっている。一時期行われた愛知大学との定期戦、長岡技術科学大学サッカー部との交流戦も現在は行われていない。OB会が組織されている団体は17団体中5団体に過ぎない。

### 3. 東海地区国立大学体育大会：東国体

対外的な活動が少ない本学の体育系活動団体にとって、東国体は最も重要な大会である。この大会は、東海4県下に位置する国立大学8大学が、当番校を順番に担当しながら運営をしている。本学と浜松医科大学は、大学の規模の点から当番校を免除されてきたが、平成14年度（'02）より、本学は名古屋工業大学と、また浜松医科大学は静岡大学と共同開催の形で、運営にも携わるように変更された。平成8年度以降の総合成績を辿ると、男子の部は、平成10年（'98）、13年（'01）、15年（'03）の3回が第7位、残りの7回は最下位となっている。本学と7位争いをしているのは、常に浜松医科大学である。競技種目別にみても、過去10年間で優勝種目はなく、平成16年度に準硬式野球部の準優勝が、唯一の上位記録である。女子の部では、この10年間常に最下位である。

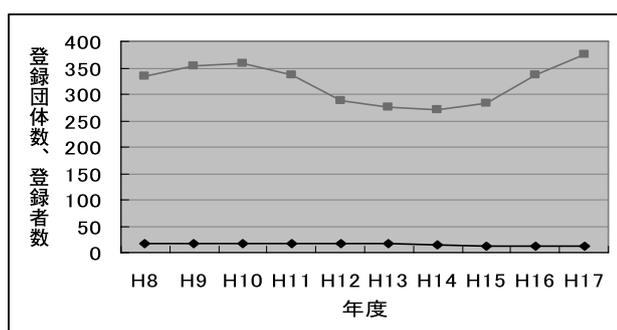


[東国体でのスナップ：剣道部大谷君]

開学当時は、東国体には全学を挙げて挑戦するような熱気が感じられたが、最近は盛り上がり欠けるように感じられる。東国体の開催時期が、本学の一学期期末試験中およびその直後であることを考慮したとしても、体育系課外活動の低迷は深刻な状況にあるといえる。

#### 4. 文化系活動団体

平成17年度登録済みの文化系活動団体数は13団体（吹奏楽団，軽音楽部，JAZZ研究会，アカペラサークル J.U.S.T.，ロボコン同好会，コンピュータクラブ，アニメーション&コミック研究会，アナログげ〜む倶楽部，二輪部，おちゃのかい，豊橋日曜学校，聖書研究会，自動車研究部）であり，学部・大学院生を合わせた登録者数は375名となっている。ここ10年間の推移を見ると，登録団体数では5団体（18団体→13団体）減っているが，登録者数では，平成12年度（'00）から平成15年度までは大きな減少となったが，平成16年度は336名まで増加し，平成17年度には平成8～9年度（'96～'97）を上回るほどまで回復している。



文化系活動団体で対外的な活動を行っているのは8団体である。対外的な活動内容としては，東海地区国立大学文化祭，全国大学ロボコン大会などへの参加，定期演奏会の開催等である。ロボコン同好会は，これまでNHK主催の全国大会でも4度優勝し（平成6，7，10，14年度），本学のプレゼンス向上に貢献している。吹奏楽団，軽音楽部，アカペラサークルなども定期演奏会やライブ

ハウスでの演奏会などの活動を行っている。その他の団体の主な発表の場は，大学祭となっている。

#### 5. 東海地区国立大学文化祭：東国祭

東国祭も東国体と同様に東海地区国立8大学により運営されてきた。本学の東国祭への参加は昭和54年（'79）より始まり，これまで連続して参加してきた。平成8年度（'96）以降の参加団体数は，平成8年度が4団体，平成9年度が5団体，平成10年から12年度までが3団体，平成13年度（'01）は2団体，平成14年度は1団体，平成15年～平成17年度が3団体となっている。この10年間に於ける参加回数が多かった団体は，軽音楽部（9回），JAZZ研究会（8回），アカペラサークル J.U.S.T.（6回）などである。平成16年度には，本学が当番大学を引き受け，豊橋市民文化会館を会場として開催された。



【第50回東国祭で演奏するアカペラサークル】

#### 6. リーダーズ合宿研修

課外活動団体の次期リーダーの養成を目的として，リーダーズ合宿研修が平成2年度（'90）より開催されてきた。平成8年度までは，乗鞍青年の家を研修場所とし，スキー訓練を交えて，リーダーシップのあり方について研修を行った。平成9年度より，研修時期を夏休みに変

更したために、研修場所も信州高遠少年自然の家（H 9, 16）、三ヶ日青年の家（H10, 14）、淡路青年の家（H11）、乗鞍青年の家（H12, 13）、焼津青少年の家（H15）などを利用している。平成17年度は、静岡県三ヶ日青年の家を研修場所とし、61名の参加を得て実施され、2日目には浜名湖に出てカッター訓練も行われた。これらの取り組みはクラブ間の交流にも役立っている。



〔浜名湖でのカッター訓練風景〕

## 7. 学長表彰

課外活動や社会活動において顕著な功績があった個人、あるいは団体を表彰する制度が平成9年（'97）2月に制定された。体育系課外活動では、全国規模の大会での入賞、東海地区大会での優勝または準優勝が、文化系課外活動では、全国規模の発表会での受賞または東海地区の発表会で優秀賞を受賞した場合などがその対象となっている。これまでの受賞実績は、ロボコン同好会が、平成10、14年に、また豊橋日曜学校が平成10年に受賞している。本年度の表彰については、平成17年6月に行われたNHK 大学ロボコン2005～ABU アジア・太平洋ロボコン代表選考会で特別賞を受賞したロボコン同好会と、同じく6月の第54回東国体で、3000m 障害に優勝し、5000m で3位に入賞した陸上競技部林育生君（物質工学課程1



〔平成17年度東海インカレ3000mSC の表彰〕

年）に授与された。林君は同年秋の東海インカレ3000m 障害でも3位に入賞した。

## 8. 今後に向けて

本学の課外活動は、総じて低調である。その理由として、学生数の少なさ、活動場所の不足や活動費の不足等が考えられるが、最終的に学生が課外活動を行う意義が低下しているのであろう。しかしながら課外活動は、教育・研究活動とともに、学生生活の両輪である。課外活動を通じて得られるさまざまな経験がその後の人生の大きな糧ともなることは、多くの先輩たちの指摘のとおりである。課外活動を充実させるための大学としての取り組みが必要なのであろう。

すべてはあの時始まった

鈴木 新一

豊橋技科大のロボコン同好会は、NHK ロボットコンテストに参加することを目的に、1991年、少数の学生によって創られた。そして、1994年の初優勝を機に、日本で最も強いチームに成長した。過去13回の大会で、4回の優勝、アジア太平洋ロボットコンテストベスト4入賞など、数多くの賞を獲得してきた。その功績により、1998、2002、2005年の三回、学長表彰を受けている。

#### NHK ロボットコンテストにおける技科大の歴史

- 1992年 初出場ながらベスト8に入る。
- 1993年 残念ながら1回戦敗退。このとき、「来年は必ず優勝する」と、テレビを通して宣言する。
- 1994年 初優勝。堺市市長賞受賞。ロボットによるサッカーゲーム。宣言通りの優勝だった。決勝戦の相手は長岡技科大であり、1点差で豊橋が勝利した。ロボコン史上に残る激戦だった。
- 1995年 V2。ロボットによるラグビー。レーザーによる自動走行は、技科大のレベルの高さを示した。
- 1996年 O-157が流行し、大会中止。
- 1997年 ベスト4、堺市市長賞受賞、最優秀ロボットに

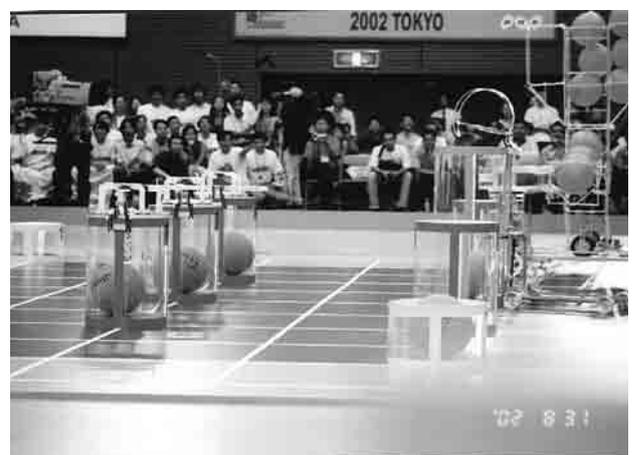
選ばれる。ロボットによるバレーボール。V3を目指し、圧倒的な強さで予選を勝ちあがるが、準決勝で長岡技科大に惜敗。とても残念だった。

- 1998年 優勝(左下の写真)。安定した自動走行の風船割りロボットと2本の腕を持つ箱積みロボットで、キングモンクット工科大学を破り、優勝した。
- 1999年 2回戦敗退。スピードの重要性を学んだ大会。
- 2000年 3位入賞。ロボットによる雪合戦。3位決定戦ではスラバヤ電子工学ポリテクニークを破る。
- 2001年 なぜか書類審査で落選。
- 2002年 優勝(右下の写真)。アジア太平洋ロボットコンテストに出場し、ベスト4入賞。技術賞とアイデア賞を受賞した。
- 2003年 前年の疲れから準備ができず、書類審査で落選。
- 2004年 デザイン賞受賞。設計思想の重要性を再認識。
- 2005年 特別賞受賞。パワーが強過ぎて試合会場を壊す。

これらの素晴らしい戦績は、1994年の初優勝から始まった。現在、ロボコン同好会は、部員数の増加と気質の変化のため、技術を継承できないという壁にぶつかっている。これは、工学教育にも関係した困難な問題であるが、これに正面から取り組むことで、次の10年、新たな飛躍を実現して行きたい。



1998年 NHK ロボットコンテスト、優勝の瞬間。



2002年の優勝。圧倒的なスピードの自動走行ロボットで開始から十数秒で試合の大勢を決める。青い風船が技科大の得点。

## 工学部学生の福祉活動

### ～技科大より歴史の長い豊橋日曜学校～

未来環境エコデザインリサーチセンター 大門裕之

「いち・にの・さん会」, 「オルガン・体操教室」, 「豊橋ひまわり号を走らせる会」, 「豊橋かたつむりの会」, 「豊橋献血同好会」, 「豊橋日曜学校」, これらは、本学の学生が深く関わってきた社会福祉団体です。なかでも第一期生から関わってきたものが、「いち・にの・さん会」, 「オルガン・体操教室」, 「豊橋日曜学校」です。主に肢体の不自由な方を対象に活動していた「いち・にの・さん会」は、平成10年頃まで継続していました。現在の豊橋駅に、エレベータと幅広い改札口が設置されたのは、この「いち・にの・さん会」も中心となった署名活動の功績が大きかったことをここに記しておきます。ここでは、現在も本学の歴史とともに継続されている「豊橋日曜学校」のこれまでの活動について紹介をさせていただきます。

1979年に養護学校の義務教育化が始められました。それより以前に、「学校へ行きたい」「友だちがほしい」という障害を持つ不就学児たちに教育の場を保障していこうと全国各地に、日曜日に開講する日曜学校が開かれました。ここ豊橋でも1973年3月、教師、保母、学生らが「手をつなぐ親の会」や「肢体不自由児父母の会」と話し合いを持ちながら「愛知県不就学児をなくす会・豊橋連絡会」を発足させ、同年5月13日豊橋日曜学校が開かれました。豊橋日曜学校は、宗教に関係した団体ではなく、こうした社会背景を持つサークルなのです。1987年頃より本学の学生が運営の中心を担い、今年で34年目を迎え、これまで400回以上が開催されています。

活動は、月に一度、豊橋市に在住する知的障害を持つ子ども・親・学生の三者が集まり、様々な行事を行います。毎回、100名前後が集まります。行事としては、ハイキング、キャンプ、運動会、技科大祭でのバザーの出店とステージでの合唱、クリスマス会などがあります。そして、それらの準備のために月に何回も話し合いの場が

持たれます。これまで、大学に隣接する福祉村、各養護学校、様々な障害者施設や作業所、そして豊橋市社会福祉協議会とも深く関わってきています。また、このような活動が認められ、これまでに数多くの賞を受賞してきました。

近年の主な受賞歴を以下に示します。

- 1993年 「愛知県知事賞」
- 1995年 「社会福祉銀功労賞」
- 1998年 「日本善行会 青年善行奨励賞」  
「豊橋技術科学大学学長表彰」
- 1999年 「国際ソロプチミスト豊橋 青少年ボランティア賞」
- 2001年 「厚生労働大臣賞」「豊橋市青少年善行表彰」  
「豊橋市青少年問題協議会会長賞」  
「豊橋北ライオンズクラブ会長賞」

(国際ソロプチミスト・シグマソサエティー団体として認証され、これ以降、毎年、援助を受けている)

- 2004年 「豊橋市ボランティア大賞」

以上が、全国各地から豊橋へ集まった工学部学生の福祉活動の一部です。

最後に、開学三十周年の記念誌に「豊橋日曜学校 (<http://www.tss-ml.com>)」というサークルを紹介する機会を与えてくださいました関係者の皆様に深く御礼申し上げます。工学部だけの小さな単科大学で、開学当時より地域に親しみ継続されているこのサークル活動を紹介できたことに心から喜びを感じています。



# 3. 学生支援

## 大学側の支援 — 学生との意見交換会

### 1. 学長と学友会

学生生活の実態，さらに意見・要望を把握し学生生活の改善・充実に資するため本学では3年ごとに全学生に対して学生生活実態調査が実施されている。

このほか，法人化を機に平成16年度（'04）から学長が直接学生団体の代表と懇談する場が設けられた。学生側は学友会，総部会，技科大祭実行委員会，クラス代表者会議の役員，大学側は学長の他副学長（教育担当），事務局長，学生課長が出席し年3回程度開催され，大学からは現状等の紹介，学生からは大学への意見・要望等が出され率直な意見交換が行われている。

### 2. クラス代表懇談会

本学では学生からの意向聴取の場として開学当初から学生生活委員会委員とクラス代表学生との懇談会が開催されている。学年・課程（専攻）ごとに選出されたクラス代表はあらかじめクラスの意見・要望等をまとめ懇談会に出席，懇談内容はカリキュラム，学習環境，学生宿舎，食堂などの福利施設の改善など多岐にわたっている。学生生活を改善・充実するため学生の意向を把握し大学

運営に反映させることは学生支援の観点からきわめて重要なことである。

### 3. 学生生活委員会と課外活動団体

課外活動団体からの意向聴取は，毎年7月に実施される課外活動団体リーダーズ合宿研修に学生生活委員会からも担当委員が同行する折にも行われているが，よりいっそうの課外活動の活性化を図るため，平成16年度から年3回程度学生生活委員会課外活動部会委員と課外活動団体との意見交換会が開催されている。意見交換会では，十分な活動時間を確保するため過密なカリキュラムの緩和，開学当初に設置された課外活動共用施設が狭隘となったため施設の増築など活動場所の拡充，トレーニングルーム，グラウンド夜間照明設置など活動環境の改善の切実な要望が出されている。そのほとんどが予算がらみの要求であるため，要望に添うような改善がなかなか追いつかない状況であるが，教育活動の一環としての課外活動を活性化するためにはできる限りの支援が必要である。平成15年度に狭隘となっている課外活動共用施設の附属施設として集会棟（117㎡・2F）が建設された。



技科大祭

## 4. 学友会

学友会は、学部・大学院に在籍する全学生を会員とし、会費（一人年3,500円）をもって学生の課外活動を支援し学生相互の親睦を推進するとともに、学生生活の向上を図ることを目的として組織されている。学友会事業は、4月には新入生歓迎行事、8月にはサッカー大会、10月には開学記念駅伝大会、3月には卒業記念パーティーが主な定例行事として実施されている。なかでも、駅伝大

会は昭和53年（'78）以来毎年開催されている伝統行事であるが、年々参加チームが減少しているのはいささか寂しい。逆に平成14年度（'02）から開催されているサッカー大会は参加チームが多く和気あいあいとゲームに興じ活況を呈している。学生同士の親睦を図る上で学友会の果たす役割は大きい。



### 実りある学生生活

私たち学友会役員会は謎の組織とよく言われています。学友会役員会はよくある学生会や生徒会のようにクラスの代表者が集まっているわけではなく、やりたい人が集まっている組織ですし、技科大祭も直接は運営していません。たしかに何をやっているかわかりづらいかもしれません。しかし、学友会役員会は、ほぼ全員が参加する新入生歓迎行事や卒業記念行事を運営しています。ほかにもサッカー大会等、学生の身近なイベントもやっています。

これらのイベントを行うのは何故でしょう。ひいては学友会の存在意義は何でしょう。それは、学生みんなに実りのある楽しい学生生活を送ってほしいからです。やはり学生生活は楽しいほうがいいと思います。

個人的な話をすると、私は学友会役員会と軽音楽部に所属しています。動機は、前者については学生のためにいろいろ企画を立案、運営してみたいと思ったからです。後者

についてはもっと音楽を知りたい、わかりたいと思ったからです。

おかげでイベントやライブ前には目が回りそうになるほど忙しくなります。つらいですが楽しいです。いや、つらいからこそ楽しいのだと私は思います。ギターの弦はある程度のテンションをかけて張らなくてはいい音は出ません。私たちにおいても同様ではないかと思えます。だらだらと日々をすごすのは楽ですが楽しくはないでしょう。なので、自分の興味を持ったことや、やってみたいと思ったことには、積極的に参加することが必要です。チャンスの神様には前髪しかありません。その前髪を掴むしかありません。しかし、私は最近こう思います。チャンスの神様はそちらこちらを走り回っていて、あとは私たちが掴むだけだと。学生生活は残り短いですが、張りのある日々を過ごして、いい音の出る学生時代にしたいです。

（平成18年度学友会会長 舟本公路）

## 5. 技科大祭

毎年、秋（通常10月第2の日・月）には恒例の技科大祭が行われる。一期生が入学した年から開催され、地域にもお馴染みの行事となっている。有志学生によって実行委員会が組織され、学友会、総部会、各サークルなどが協力し各種の催し物の準備が進められる。経費は学友会からの補助および地元企業等からの寄付で賄っている。自前イベントはメインステージでのパフォーマンス、サークル発表、模擬店、ソフトボール大会などで、研究

室公開は近年は夏に開催されるオープンキャンパスに譲っている。留学生はお国自慢の料理の模擬店を出店し国際色豊かににぎわう。しかし、なんと言っても集客の目玉はタレント公演のようであるが、市民、中高生他多くの地域の方々が技科大祭を楽しみにしてくれている。学生にとっても貴重な学外の方々との交流の場ともなっている。

### 技科大祭テーマ及び実行委員長（第19回～第28回）

テ ー マ		実行委員長	
第19回（平成8年度）	Active Beat をまきおこせ	電気・電子工学課程	近藤 史隆
20（9）	New Wave	電気・電子工学課程	池田 光邦
21（10）	get one's jollies	物質工学課程	加藤 充次
22（11）	まんぷく 技科まつり in 99	エコロジー工学課程	堀田 雅也
23（12）	祭 遊 喜 ー遊び、楽しみ、喜んで、そして満足ー	エコロジー工学課程	山内 慎祐
24（13）	Key In Love	エコロジー工学課程	楠村 隆広
25（14）	ギカレンジャー	機械システム工学課程	濱口 浩二
26（15）	G1～技科大史上最大の祭	生産システム工学課程	橋ヶ谷佳史
27（16）	技科人（ギカンチュー）～全国大会～ in 豊橋	エコロジー工学課程	天野 勇
28（17）	Smile Delivery GIKA Festa	建設工学課程	斉藤 恵一

### 情熱の炎

旅行中、暖炉の火を見つめていたときに気がついた。私にはめらめらと燃えるそれが木の内側から外側へ、力強く出ようとしているように見えるということ、よく、情熱が炎に例えられる訳をそのとき、すんなりと理解したのだ。情熱とは心に持つ目標、すなわち心の中の燃料が自らを奮起させ、楽しい気持ちや真剣な気持ちにさせるのだろう。

暖炉の火はやがて燃え尽きてしまったが、心の炎は絶やさず燃やし続けることができる。常に新たな燃料を注ぎ込めばいいのだ。私にとって今それは大学祭の成功であり、勉強やアルバイトに真剣に取り組むことである。大学祭が終われば、また私には新たな目標ができるだろう。一步一步進んでいけばいいと思う。様々な問題にぶつかることもあるだろうが、歩みを止めなければ乗り越えることができ

ると信じている。

第29回の大学祭に向け、問題は山積みである。今の構成員は私一人だし、その私は女性初の委員長であり、5系初の委員長である。1年の頃から委員長になることが決まっていた私はずっと、委員長としてどんな仕事ができるのか、どんな大学祭にできるか、考え続けてきた。しかし今、従来通りの学祭を行うことも難しい状況である。だが、私らしい仕事の仕方はひとつではないはずだ。まずは“私らしい”ということを考え直してみようと思う。また新たな燃料が注ぎ込まれた。私は大学祭に向け、一歩踏み出す。

この30年史が発行される頃はちょうど、大学祭も本番を迎えている時期だ。心の炎はどれ程大きく燃え上がっているだろうか。

（第29回技科大祭実行委員長 小原みのり）

# 6. 留学生

## 1. 留学生の受け入れ

平成14年（'02）に留学生センターが設立され、従来から行われていた留学生に対する日本語教育、相談業務、支援及び交流活動などのさらなる充実が図られた。留学生を担当する事務局も学務課留学生係から新たに設置された留学生課になり、平成16年には留学生課から国際交流課へと組織が変わった。本学で学ぶ留学生はこの10年でいっそう多様化が進み、12月入学の大学院英語特別コース生、交流協定校からの短期特別研究学生、日本語研修コース（半年）の日本語研修生など滞在年数、日本語能力、来日時期もさまざまである。留学生センターおよび国際交流課では、この多様な留学生の学園生活を支援するため、新生に対する留学生オリエンテーションを年に2回実施し、留学生向けのホームページを開設するなどして、留学生に対する適切な指導および情報提供を行っている。

## 2. 留学生対象のプログラム

留学生センターでは、半年間の日本語研修コース、正規科目としての日本語・日本事情教育、日本語および専門の課外補講、相談業務等を実施し、留学生の大学生活における教育および研究を支援している。さらに、平成16年からはサマースクールも開講し、協定校の学生を受け入れている。その他、外国人留学生見学旅行（夏季、春季）、日本語研修コースの日本文化研修（年2回）、留学生意見交換会、留学生懇談会、留学生による語学研修会などを企画し、留学生が日本文化に触れ地域の人々と交流する機会を提供している。

半年間の日本語研修コースは、正式には大学院修士課程進学前日本語予備教育コースという。国費留学生や大使館推薦留学生のために設けているが、人員に余裕があれば、私費の留学生や外部にも門戸を広げている。日韓共同理工系学部留学生も受け入れている。年間2コース（各450時間程度）開講している。

### 思い出深い技科大生活

私は2003年に技科大に入学しました。その年、1年次に入学した留学生は私を含めて3人だけだったので、心細く感じました。勉強ができるか、友達が作れるかといういろいろな不安を抱いていました。オリエンテーションのとき、何とか隣に座っている人に話しができ、それをきっかけとして、自分も自信が持てるようになりました。私の技科大での生活はこうして始まりました。

私は今までこの大学で色々な経験をしてきましたが、その中で印象に残っていることを紹介したいと思います。その一つは日本に来てから4か月経った時、留学生見学旅行に参加し、京都に行ったことです。金閣寺に行った時は、「本当にすごい」という一言でした。池に映っている金閣を見て、やはり世界遺産と言われるだけの建物だなと感心しました。その夜、日本人だけでなく、留学生もゆかたを着て、和風の料理を食べました。このとき私は初めて日本の文化に触れた感じがしました。

2学期に入り、10月には初めての大学祭がありました。

マレーシアの留学生たちはマレー料理の屋台を出しました。先輩から後輩まで、皆で協力したことで、学年を超えた縦のつながりができました。私たちのカレーは昼過ぎには売り切れてしまい、とても満足しました。そのとき大声で言った言葉「いらっしゃいませ、マレーシアの料理はいかがでしょうか」は、今でも耳に残るほどの思い出になっています。

やがて期末試験に入り、私は日本人の友達と一緒に図書館で勉強しました。深夜2時ごろになっても、皆頑張っていて勉強していました。私は諦めてしまいそうになりましたが、周りを見て、「皆が頑張っているから、自分も諦めてはだめだ」とやる気になりました。眠たいとき、疲れたときは、一緒にコンビニまで歩き、軽い食事をして、また頑張りました。

残りの学園生活は少ししかないけれど、私はこれまでの経験を忘れずに、精神的にもっと強くなれるよう頑張りたいと思います。

（知識情報工学課程3年 Syimatul Husna Binti Said, マレーシア）

正規科目としての日本語・日本事情教育は、学部および修士正規学生のために開講している。

日本語課外補講は、日常生活や日本人との交流に必要な日本語の運用能力を身につけるため、留学生の為に開講している（年間200時間程度）。家族も受け入れ可能である。

専門科目の課外補講では、留学生の学力調整のために自然科学系科目を年間50時間程度開講している。

相談業務は、日常的に行っており、指導教員や国際交流課と連携して心身のケアも含めた幅広い相談・指導をきめ細かく行っている。年間50数件の相談があり、留学生の日本での生活をサポートしている。

見学旅行は、留学生が日本の産業、文化、歴史を理解するために、工場や名所旧跡などを見学し、ふだんの大学生活では触れる機会の少ない日本文化を体験することを趣旨としている。平成15年からは夏季は国際交流委員会が産業見学を、春季は留学生センターが文化見学を企画することになった。

平成9年以降の見学旅行先は以下の通りである。

夏季：北陸方面（ヤンマーディーゼル長浜工場他）、近畿方面（シャープ工場他）、富士方面（ヤクルト工場他）、岐阜方面（ヤマザキマザック美濃加茂工場他）、石川方面（小松フォークリフト栗津工場他）、甲府方面（サントリー白州工場他）、京都方面（島津製作所他）、伊勢志摩方面（シャープ亀山工場他）、愛知万博（トヨタ自動車工場他）

春季：横浜方面、岡山方面、京都方面、東京方面、広島方面、兵庫方面、岡山方面、福井・金沢方面

日本文化研修は、平成15年から年に2回実施しており、日本語研修生の他、学生や教職員なども参加している。今までに声楽家深川和美氏による日本の歌唱鑑賞と解説・指導、画家山口喜弘氏による日本画解説と指導、常滑焼の陶芸教室、狂言師川上孝也氏による講演などを主催している。

### 技科大で得た私の財産

私は2000年来日し、2001年4月にこの大学の学部に入學しました。もうすぐ5年になります。勉強すべきときはしっかりと勉強し、遊ぶときには思い切り遊びながら、この大学で大切な時間を過ごしていると思います。

私が学部3年次のとき、ほとんど毎日、1限目から6限目まで講義があり、レポートも毎週8つぐらい提出しなければなりません。レポートの形式が違ったり、文章のつながりがおかしくなっているときは、レポートの再提出も何回か要求されました。4年次のときは、卒業研究発表のために、研究室メンバーの前で、10回以上も発表練習し、先生に言葉の使い方や説明の仕方を教わりました。そのおかげで、発表会では緊張しながらも、うまく発表ができました。今も先生と研究室のみなさんに感謝しています。

勉強でいつも忙しいので、休みのときには、どうしても遊びたくなります。私はパーティーや旅行に積極的に参加してきました。大学の一角にある国際交流会館を会場にし

て、1ヶ月に数回、各国の学生が参加するパーティーがあります。「Welcomeパーティー」から「学生の誕生日パーティー」まで、さまざまです。日本の学生や他の留学生と国の紹介をしたり、国の文化について熱く語ったりして、いつも知らないうちに、時計の針が12時を回っています。旅行は毎年、大学主催の見学旅行に参加して、日本の名所旧跡などを訪れています。この旅行では、日本の歴史や文化に触れられるので、日本人と社会に対する理解を深めることができます。

私はあと1年で技科大を卒業します。この大学で、研究に必要な基礎知識と考え方を学ぶことができました。日本人や文化に触れることで日本に対する理解も深まったと感じています。日本人とのコミュニケーションの仕方も少し分かるようになりました。そしてそれらは、私の大切な財産です。

（知識情報工学専攻修士2年 董双奇，中国）

留学生意見交換会では、毎回、テーマを設定し、地域の交流協会等からの出席者と本学留学生による意見交換が行われている。これまで話し合われたテーマは下記のとおりである。

「地域における国際交流（各国際交流協会主催の各種行事の話題を中心に）」

「1. 地域と留学の国際交流, 2. 留学生の保証人問題について」

「1. 地域交流（ホームステイについて), 2. 留学生の受け入れについて」

「留学生との交流及び支援体制について」

「外国で暮らすということについて」

「国際理解教育について」

「日本の中の多文化（多文化とその共生）」

「自治体と国際交流協会とのコラボレーション」

「地域の文化と伝統を軸にしての国際交流」

毎年、地域と関わりのある内容について有益な意見が交わされている。また、意見交換会の後には、大学主催

による留学生懇談会が催され、日頃留学生をご支援くださっている地域の方々、留学生、教職員などが多数参加している。

### 3. ホームページの開設

留学生のためのホームページは、平成11年に当時の留学生専門委員会によって「留学生情報」として作成され、各種お知らせ、日本での生活、日本語学習、専門学習などについての情報を提供していた。留学生センター設立以降、平成15年には「留学生ホームページ」が開設され、奨学金などの募集や各種お知らせなど、留学生の生活を支援するためのさまざまな情報を提供している。また、このホームページでは不用品の譲渡や母国の紹介などの留学生からの情報発信も可能になっている。さらに、平成16年からは留学生センターのホームページも開設され、スタッフの紹介、各種教育プログラムや行事のお知らせ、相談窓口、年報など教育支援面での情報を中心に掲載している。



留学フェア



外国人留学生・留学生チューター・ガイダンス



平成18年夏の留学生見学旅行



留学生懇談会

# 7. 就職

## 1. この10年の就職分野

本学は当初6課程でスタートし、昭和57年度（'82）に初めての修士課程修了生を出した。その後、平成元年（'89）3月に最初の博士後期課程修了生を送り出した。昭和63年度（'88）の新設された知識情報工学では、最初の学部卒業生を平成3年（'91）3月、また修士修了生を平成5年（'93）3月に送り出した。また、平成5年に新設されたエコロジー工学では最初の学部卒業生を平成7年（'95）3月、また修士修了生を平成9年（'97）3月に送り出した。この結果、平成9年3月以降の10年間では、学部と修士をあわせて就職する者は、年で約370人前後となった。学部学生は、おおむね80%が大学院に進学するが、約15%（年約60-70名）の者は経済的理由等により学部卒業で就職している。

平成9年3月から平成18年度3月現在までの修士修了者については、就職した者は全体で2975名（平均年298名）であり、産業別には、建設業263名、製造業2049名、電気

ガス水道業57名、運輸・通信業162名、サービス業244名、卸売・小売業16名、不動産業6名、公務員（国家、地方）123名、その他55名となっている。全体の約9%が建設業、約69%が製造業、約8%がサービス業に就職しており、本学学生の就職が、建設も含めれば、約80%が製造業であるという特色が挙げられる。民・公の区別では、この間、東証1部上場企業が約50%、2部上場企業が約4%、非上場企業が約42%、公務員等が約4%であり、1部上場企業が半数となっている。この間、高等専門学校に就職したものは、6名であり、昭和56年から63年までの高専への就職数42人に比較し急激に減少している。

修士終了後の博士課程進学については、平成9年3月から平成18年度3月の10年間で285名（年平均29名）であり、他大学への進学が37名と全体の約13%となっている。ほとんどが本学に進学している。

平成8年3月から平成17年度3月現在までの博士後期課程修了者については、就職した者は全員で、180名（年平均

### 就職雑感

現在は学生を送り出す側にいますが、かつては学生を採用する側にいました。採用時の大事な点は、トラブルメーカーの採用を防ぐことです。その経験から学生には、「これまで幸せだったこと、嬉しかった事の一つ一つ思い出し、心から幸せだと思える状態で面接を受けなさい。あなた達の心の中から幸せのオーラが滲みだし、面接担当者はきっとあなた達のとりこになり、採用間違いなしですよ。」と指導し、学生はこれで合格してきました。

しかし、最近是人柄よりも即戦力重視で、ジョブマッチングで選別されます。役員面接はその後です。これはアメリカ型の機能主義、実力主義を反映した採用方針です。学生には、企業が何を行うかを調査し、自分が何に寄与できるか主張できる内容を用意して受験しなさいとアドバイスしています。危惧するのは、遅咲きの学生が否定されることです。

モーツアルトは31歳で41もの交響曲を完成しました。ベートーベン、この年で第一交響曲しか完成していません。

ん。ここで才能を評価されたら、ベートーベンは後世に名を残せなかったでしょう。しかし二人とも天才です。異分野の人材も排除されます。鳥津製作所に入社した田中耕一さんの専門はアンテナです。しかし、仕事は関係ない化学の領域で、ノーベル賞を受賞しました。遅咲きの人材、異分野の人材は、これからの日本では生きていけないのでしょうか。

日本の伝統は、年功序列。ノウハウは先輩から後輩に伝授され、皆が助け合って成果を出し、会社を愛し繁栄する。プロジェクトXは、そのような世界です。アメリカ型では若年者でも先輩を出し抜き上に立てる。先輩は恐ろしくて、ノウハウなど後輩に教えられない。出来る男は、もっとよい待遇を求め、他の会社に移る。元の組織に恩義も敬愛も必要ない。現在のすさんだ世情は、日本の良き伝統が損なわれ、欧米型の短期的な成果主義を第一にする結果なのではないでしょうか。日本の将来を案じざるを得ない気持ちです。

（情報工学系 横山光雄）

均18名)となっている。民・公の区別では、この間、1部上場企業が約21%、2部上場企業が約5%、非上場企業が約18%、公務員等が約59%(106名)であり、公務員等が50%を超える。この間、高等専門学校に就職したものは、19名であり、昭和56年('81)から平成7年までの約20年までの高専への就職数12名に比較し増加しているが、これは、従来は修士修了後に高専に就職していた者が、この10年では、博士修了後に高専に就職するような変化があったことを示している。修士、博士あわせた総数でも、高専への就職者は相対的に減少してきている。

## 2. 就職担当専門員と就職資料室

バブル経済崩壊も相当に進んだ段階であるが、平成12年度('00)には就職担当専門員制度が設けられ、1名が

専任で担当している。あわせて、就職資料室が開設され、学生の就職活動を助けており、厳しい経済状況の中ではあるが、ほぼ全員の学生が就職する実績となっている。平成14年度には外部専門家による就職相談、平成15年度には職業適性テストが導入され、多くの学生が参加している。17年からは、就職直前対策講座、また、企業説明会が本学内で実施されている。

平成16、17年度のこの2年では、就職活動は早まり、3年(あるいは修士1年)の9月あるいは10月には就職ガイダンスが始まり、希望者への職業適性テストの実施、就職対策講座(面接など)や進路講座、外部専門家による就職相談など、また、学生の就職意識の形成に資するため本学卒業生による就職特別講演会(キャリア支援、職業意識向上)が11月前後に開催されてきている。

### 採用活動から見た豊橋技術科学大学

創立30周年おめでとうございます。昭和57年('82年)に生産システム工学系を修了しました、株式会社ルネサステクノロジーの小泉と申します。

ルネサスは、平成15年('03年)4月1日に日立製作所と三菱電機の両半導体部門が独立・統合した半導体専業メーカーです。私は、日立製作所半導体事業部の時代から、採用活動に10年余り携わっており、OBリクルータとして、毎年大学を訪問させて頂いております。

今般、30年史への執筆依頼を頂戴しましたので、弊社の採用活動の概況、又、活動を通しての母校に対する感想等を紹介させて頂きます。学生の皆様にご参考として頂ければ幸いです。

#### 1. 弊社の採用活動

年間を通して卒業生がメンバーとして活動しています。特に就職活動の時期には、弊社の採用がジョブマッチング方式であることから、応募時点で希望職種を選択する際にアドバイスさせてもらう等、きめ細かなサポートを心がけています。

毎年1月からの実務訓練では、2ヶ月の間に交流を深めることを目的に、受入部署における懇親会を主催しています。

#### 2. 豊橋技術科学大学の特徴

専門性の高い方が多く、積極的に採用したい方が数多くいる大学という印象を持っています。高専での実習を経験しているので、現場に対する違和感がなく、又、実務に即した研究を行っているところが魅力だと思います。

2ヶ月間のインターンシップは、学生にとっては企業の業務内容を肌で感じられる機会であり、企業にとっては学生の実力を推し量ることが出来る、双方にメリットのある制度だと考えています。

#### 3. 豊橋技術科学大学生へお願い

顧客と競合他社の多くが海外にいます。顧客との意思疎通に際して、海外におけるビジネスの共通語である英語はコミュニケーション・ツールとして必須です。学生時代から意識して語学習得に励まれることをお勧めします。

自分の専攻学科については、他人と十分に語り合える知識が必要です。学生時代に基礎的な知識を吸収し、論理的な思考能力を高めておくことで、業務内容の変更や部下を指導する立場になる等の会社生活の転機に対応出来る様になるとと思います。

末筆になりますが、創立30周年を迎える豊橋技術科学大学の益々の発展と在学生、同窓の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

( '82年2系修了 小泉 智道)

## 最近数年間（平成15、16、17年度）における就職先の例（順不同）

アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン・エーアイ、アイシン・エンジニアリング、アイシン開発、アイシン化工、アイシン精機、アイシン高丘、愛三工業、アイセロ化学、愛知ゼロックス、愛知時計電気、アイテック、アイホー、青木茂建築工房、あおば農協、旭化成エレクトロニクス、旭化成マイクロシステム、旭化成情報システム、旭硝子、旭テック、アスモ、アルソア、アルパイン、アルプス電気、アンリツ、いすゞ自動車、石川島播磨重工業、泉創建エンジニアリング、一条工務店、出光興産、伊藤忠テクノサイエンス、INAX、イビデン、ウシオ電機、内浜化成、浦野設計、FDK、SMC、NSK ワーナー、エス・バイ・エル、NEC、NEC エンジニアリング、NEC エ

レクトロニクス、NEC システムテクノロジー、NEC ソフトウェア中部、NEC ソフトウェア東北、ATMI ジャパン、エスティ・エルシーディ、NOK、NHK、NTT ファシリティーズ、NTT データテクノロジー、NTT ドコモ、NTT 西日本、NTT ソフトウェア、NTN、オオクマ、大林組、オムロン、オリエンタル建設、王子製紙、小野薬品、OSG、大塚ポリテック、オンキヨー、

鹿島建設、川本製作所、カヤバ工業、海上自衛隊、カシオ計算機、蒲郡市役所、川崎造船、ガステックサービス、気象庁、紀本電子工業、キャタラー、キャノン、キャノンソフトウェア、共和工業、京セラミ

## 学業と職業

私は学生時代、青木先生（第5工学系）の指導のもとで有機低分子化合物のX線結晶構造解析を行っていた。実験がうまくいき新しい結果がでたときはそれがどのようなものであってもうれしく思うものだと思うが、結晶構造解析では構造を決定した瞬間は世界中でいまだ誰も知らない構造を自分だけが知っているという思いがあって、ただ単純に喜んでいたいという記憶がある。やがて博士後期課程も3年目となり就職について考えるときがきていたが、大学院修了後はポスドクにいきたいと早くから考えていた。X線結晶構造解析以外のことをやる気はなかったのだが、ポスドクでは研究対象を少し変えてタンパク質の構造解析をやってみようと思っていた。青木先生にも相談しドイツ・ベルリン自由大学へポスドクとして留学することになった。英語もろくにできなかったのにわざわざ英語の通じないドイツに行ったのはわれながら変わっていると思わなくもないが実にいい経験だったと思っている。結局ドイツには3年間ほど滞在した。学生ときは奨学金と仕送りで生活し

ていたが、ドイツ滞在中はポスドクとしての給料で生活した。このときが私の“職業”の始まりだと考えている。帰国後は横浜で研究所の研究員としてポスドク時代の仕事であるタンパク質の結晶構造解析を続けた。ここではさまざまな人間との交流があり、“学ぶ”部分の多かったように思うポスドク時代に比べて、より職業としての研究を行なったと感じている時代である。現在はさらに東北大学に研究の場を移し、自らの研究チームを持ちより重い責任の上で仕事をする立場となった。

卒業からこれまでの人生を振り返り、それぞれ節目にあたる選択で自分の希望するような職業に就くことは安易なことではなかったと考えている。それでも今に至るまで、大学、ポスドクと学んだことを引き続きその後につなげることができたことは自分自身にとって幸運だと思っている。今後も人生の節目になるであろう選択がくると思うが自分の希望を実現する意志をもって仕事を続けたい。

（平成9年度機能材料工学専攻修了 村山 和隆）

タ、極東開発工業、キンセイマテック、クラブウ、警視庁、倉敷紡績、神戸製鋼所、光洋精工、コニカミノルタオプト、コニカミノルタビジネステクノロジー、小林製薬、ケンウッド、神戸市役所、コベルコ建機、コベルコ科研、

サーラ住宅、サトー、独立行政法人産業技術研究所、三洋化成工業、三洋電機、サンケン電気、資生堂医理化テクノロジー、システムアドフォース、島津製作所、澁谷工業、シャープ、JR 東日本、JR 東海コンサルタント、滋賀県警、JFE エンジニアリング、ジヤトコ、シャルマン、四国電力、静岡放送、清水建設、新日本製鉄、新東工業、新日本空調、新菱冷熱工業、信越ポリマー、住友軽金属工業、住友電装、住友電気工業、住友電工情報システム、スズキ、スズキスポーツ、駿河テクニカルセンター、セイコーエプソン、セキスイハウス、セコム、セガ、仙台ニコン、全日空整備、ソニー、ソニーエナジーデバイス、ソニー LSI デザイン、ソニー CP ラボラトリーズ、ソニーエリクソンモバイルコミュニケーションズ、ソニー EMCS、ソニーセミコンダクタ九州、ソニー福島、

第一精工、第一工業製薬、ダイキン工業、ダイダン、大同特殊鋼、大同メタル工業、高木化学研究所、大日本スクリーン製造、大日本印刷、ダイハツ工業、大和ハウス工業、太陽化学、高松建設、タカニチ、タクマ、タダノ、谷山建築設計事務所、WDB、WDB エウレカ、月島機械、千代田化工建設、鶴弥、通信衛星 システム、デルモ、電気技術開発、電源開発、デンソー、デンソーアイセム、デンソークリエイト、デンソーテクノ、テクノシステム、トキコ、東海カーボン、東海光学、東海ゴム工業、東海分析化学研究所、東海理化電機製作所、東海漬物、東部ガス、

東邦ガス、東京消防庁、東京鉄鋼、東京電力、東芝、東芝機械、東芝セミコンダクター、東芝ソシオエンジニアリング、東陶機器、東北電力、東洋キャリア、東洋製罐、Techno Systems Inc.、トスレック、富山テレビ放送、東横化学、トーエネック、戸田建設、鳥取県警察、鳥取県庁、鳥取三洋、トピー工業、トヨタすまいるライフ、トヨタ自動車、トヨタ車体、豊田自動織機、豊田中央研究所、トヨタ紡績、豊田合成、トヨタテクニカルディベロップメント、トヨタコミュニケーションシステム、トヨタテクノクラフト、トヨタテクノサービス、豊橋造船、豊橋市役所、トリケミカル研究所、

中菱エンジニアリング、日進工業、日産自動車、日産テクノ、日産ディーゼル工業、ニコン、ニデック、西日本電信電話、ニッソーサービス、ニチコン、日揮、日東電工、日東工業、日本アイビーエムインダストリアルソリューション、日本アルシー、日本板硝子、日本精化、日本ビー・ケミカル、日本山村硝子、日本ガス、ニッポンコムスン、日本信号、日本精工、日本電算、日本原子力発電、日本電気化学、日本電子、日本無線、ニフティ、日本コンピュータ、日本システム開発、日本プロセス、野村総合研究所、ノリタケカンパニーリミテド、

ハイテック、長谷川香料、半導体エネルギー研究所、パスコ、パイオニア、パナソニックストレージバッテリー、パナソニックコミュニケーションズ、パナソニックモバイル、浜松ホトニクス、林テレンプ、半導体エネルギー研究所、PFU、ヒミカ、東三河地域研究センター、日立製作所、日立 IE システム、日立アドバンスデジタル、日立システムバリュー、日立エンジニアリングサービス、日立金属、日立情報システムズ、日立ソフトウエアエンジニアリング、

日立ハイテクノロジーズ, 日立化成工業, 日立ホーム&ライフソリューションズ, 日立プラント建機, 日野自動車, ヒラテ技研, 福岡エアサービス, 富士医療器, 富士カーボン製造所, ファナック, 藤久, 不二越, 富士ユニバンス, 富士機械製造, 富士ゼロックス, 富士写真フィルム, 富士電機 FDK, 富士重工業, 富士通, 富士通エルエスアイソリューション, 富士通コンピュータテクノロジーズ, 富士通サポート&サービス, 富士通システムソリューションズ, 富士通テン, 富山富士通, フタバ産業, 船井電気, フルキャストテクノロジー, VSN, ブラザー工業, プリヂェストン, ペンタックス, ベルシステム研究所, ベンチャーセーフネット, 放送衛星システム, 北陸放送, HOYA, 堀場製作所, 本多技研工業,

前田建設工業, マキタ, 松下電器産業, 松下エコシステムズ, 松下システムテクノ, 松下半導体エンジニアリング, 松下空調エンジニアリング, 松下電器産業システム名古屋研究所, マツダ, MARUWA, モリタ, 三浦工業, 三井金属, 三井造船, 三菱重工業, 三菱自動車工業, 三菱自動車エンジニアリング, 三菱ふそうトラック・バス, 三菱電機, 三菱電機エンジニアリング, 三菱電機メカトロニクス SW, ミネベア, みどり化学, 美濃窯業, ミヤケ, ムツミ工業, ムトーテクノサービス, 武蔵精密工業, 村上開明堂, 村田機械, 名工建設, メイテック, 明電舎, 明治乳業, 森精機製作所, モトローラ,

安川電機, 矢作建設工業, 矢崎総業, ヤマトエスロン, ヤマハ, ヤマハ発動機, ヤマハリビングテック, ヤマハエネルギーシステム, ユアサコーポレーション, ユニチカ, ユニチャーム, 雪印乳業, 横河電気, 吉川工業,

ラサ工業, 陸上自衛隊, リコー, ルネサステクノロジ, ローム,

ワールド航空サービス,

青山学院大学, 木更津高専, 熊本県立大学, 武漢化工学院, 高松高専, 徳島大学, 名古屋大学, 千葉商科大学, 中京大学, 東京大学, 東北大学電気通信研究所, 豊田工業大学, 豊橋技術科学大学, 長野高専, 米子高専, 理化学研究所, National Univ. of Laos, Mongolian Univ. of Science and Technology, State Polytecnic of Sriwaaaya, Univ. of Syiah Kuala, Andalas Univ., Ministry of Rural Department, Rural Road Department, Ministry of Land Management, Urban Planning and Construction, Economic Institute of Cambodia, State of Para Habitation Company, Univ. of the Philippines, Univ. Tenaga Nasional



## 8. 同窓会

### 全学同窓会の活動

本学の同窓会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的として、大学院修士課程第一回生が修了した昭和57年3月に発足した。同窓会は主として、正会員（本学にかつて学籍を置いた者）、準会員（本学に現在学籍を置いている者）、および特別会員（本学の現職および退職教員）から組織される。平成18年3月現在の正会員の数は約1万人に達しようとしている。

同窓会では、主に次の活動を行っている。

- ・同窓会報の発行
- ・会員名簿の管理
- ・卒業記念パーティーの開催
- ・学生活動への支援
- ・総会・役員会の開催
- ・同窓会ホームページの運営

同窓会報は毎年1回12月ごろ発行され、平成17年12月に第23号を発行・発送した。第19号（平成13年発行）からは各系独自に4ページを編集担当するなど、より一層の紙面の充実を図っている。一方、これまで約4年に1回発行していた全学単位の同窓会名簿は、個人情報保護の観点から第4号（平成12年発行）を最後に、発行を中止することとした。代わりに、同窓生が必要とする部分（研究室単位もしくは同期生単位など）を本人確認の上、提供することとしている。また、本学の開学30周年を機に大学とのよりいっそうの関係強化を図るとともに、住所録の共同管理についても協議を進めている。

本学在學生に同窓会活動への理解を深めてもらうために、毎年、大学院修了式・学部卒業式後に、学友会と共催で卒業記念パーティーを開催している。当日は同窓会長も列席し、修了生・卒業生への祝辞を贈っている。また、平成10年度から、従来の技科大祭の開催支援に加えて、在學生の課外活動（クラブ・サークル）への資金援助を積極的に行っている。

毎年4月下旬に定例の役員会を開催して、前年度の報告とその年度の事業計画について議論している。また、

役員メーリングリストにより活動内容等を随時協議するとともに、必要に応じて臨時の役員会を開催している。特に、近年は本学の法人化や開学30周年記念事業に関連して、頻繁に臨時役員会を開催し対応を協議しているところである。一方、4年に1回、定期総会を開催し、事業報告、事業計画、会則改定などの審議を行っている。平成13年度からは同窓会業務（事務局、会計、名簿管理など）を各系持ち回りで担当し、負荷を分散するとともに、より協力して活動できる体制を整えている。

平成12年10月には、それまで試験的に運用していた同窓会ホームページを専用サーバ上に正式に開設した。

(<http://www.tut-ob.org/>) ホームページ上では、最新の同窓会ならびに本学の動きをお知らせするとともに、同窓会報や、役員会・総会の議事録などの情報提供を行っている。

### 豊橋技術科学大学同窓生懇親会（東京）の報告

平成17年1月21日、本学主催の「知的財産・産学官連携フォーラム in 東京」に併せ、同窓会が発足して以降初めて東京（東京厚生年金会館）で全8工学系の同窓生を対象とした懇親会を開催しました。当日は、平日にも関わらず、同窓生・旧教職員50名、本学教職員28名、来賓1名、同窓会役員15名の計94名の非常に多くの方にお集まりいただき、懇親を深めていただくことができました。今後も、このような企画を検討していきますので、皆様のご参加をよろしく願いいたします。



## 建設工学系25周年記念シンポジウムについて

細田智久 建設工学系助手

建設工学系設立25周年を記念し、平成13年11月23日に系と同窓会の共催で以下のシンポジウムを豊橋商工会議所で開催し、教職員等37名、同窓生64名、在校生57名の計158名に参加していただきました。

1. 特別講演 「あなたは21世紀をどう生きるかー低成長下の建設業の中でー」水谷研治氏(元東海総研理事長)をお招きし、エコノミストの視点から、バブル経済以降の右肩下りの時代になった理由と今後の見通しを講演していただきました。

2. パネルディスカッション 「あなたの誇れる技術は何かー21世紀に求められる技術者像ー」産学官の様々な立場で活躍する同窓生6名をパネラーとし、①学生時代の思い出、②現在までの職歴とこれからの仕事の見通し、③それぞれの分野で必要とされる人物像など、就職後のユニークな経験談も交えながらお話していただきました。就職を指導する教員、就職活動を控えた在学生にとって貴重な時間となりました。

3. 意見交換会など シンポジウム後の懇親会では、各参加者が思い思いに輪を作って談笑し、その後は研究室

毎に二次会が開かれたところも多く、シンポジウムを機に同窓生の縦のつながりを強めることができました。

4. 雑感 上記の開催で、特に在学生は活躍している同窓生を見て大変な刺激を受けたと思います。また、同窓生の中には地域別や研究室単位で長く定期的な集まりを持っている所もあり、今後も系同窓会はこのバックアップを担いたいと思います。さらにここ数年、産学官の広い分野にわたる多くの同窓生に系の研究・教育へ多大な協力をしていただいています。今後も益々同窓生の力が大学の発展に必要なようになってくると考えています。



## 電気・電子工学系及び情報工学系同窓会活動

稲田亮史 電気・電子工学系助手

平素より、豊橋技術科学大学同窓会の活動に対する御理解・御協力をいただき、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。同窓会には、大学の教育・研究の活性化に貢献することがより強く求められており、そのためには、系内での同窓会活動を積極的に活性化していくことが更に重要になると考えております。

また近年、本学学生の国際学会での発表件数は増加する傾向にあります。しかし、各研究室から学生に支給される旅費は必ずしも十分な金額ではなく、自費を負担して国際学会に参加する学生もいます。このような状況では、優れた研究を行いながらも、その成果を発表する機会を失う学生が出てくるのが危惧されます。

以上の背景を踏まえて、電気・電子工学系(3系)及び情報工学系(4系)同窓会役員会では、大学活性化への貢献事業として、国際学会での研究成果発表を行う3・4系学生への奨励金制度を創設する案をまとめ、同窓会報No.22(平成16年度発行)にて会員の皆様にアナウンスさせて頂きました。また平成17年度から公募を行い、計10名の修士課程並びに博士後期課程の学生に奨励金を助成させて頂きました。採択された学生による国際学会参加報告は、同窓会報並びに本学同窓会HPにて順次紹介していく予定です。今後も、このような系内同窓会活動を通して、大学の教育・研究の発展・活性化に貢献していきたいと考えております。よろしく御指導・御鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

## 同窓会活動の現状とこれから

佐藤裕久 同窓会副会長（物質工学系助手）

私が同窓会の役員を依頼されたのは、十数年前の本学に赴任して間もなくの事でした。当時は役員が今ほど多くなく、幾つかある事業を実質的に1人で担当していたものもありました。そのために本業の仕事が忙しくなると同窓会の活動ができずに、度々計画中止というトラブルに見舞われました。その都度改善を行いながら役員を増やして分業制にするなど、安定した同窓会活動を継続できるよう活動してきました。今から顧みると、ここ10年は同窓会にとって安定していた期間であったように思います。

現在は、豊橋技術科学大学が独立行政法人となって生き残りを賭けた様々な改革を行い始め、それに伴い大学側から同窓会も活性化を行うよう求められるようになりました。これに対してすでに同窓生が1万人弱と大きな組織となり、身動きが取れなくなってきた全学同窓会に代わって各系同窓会の活動を活性化して、同窓生の皆様がより気軽に同窓会に参加できるように活動の場を徐々に移し始めています。更に豊橋技術科学大学が創立30周年を迎えるのを機に、大学側と幾つかの事業で緊密に連携して合理化・活性化させようとしております。

ところで、同窓会は「会員相互の親睦を図り豊橋技術科学大学の発展に寄与する」という目的で活動を続けております。目的の一つである大学の発展に寄与するとい

う点ではここ数年改革が随分進んだものの、会員相互の親睦を図るというもう1つの目的については一向に改革が進んでおりません。もちろん何も行わなかった訳ではなく、これまでに幾つか企画を立てて実行したものの、同窓生からの声や要望が聞かれず、或いは参加者が乏しいことから廃止という状況が続いています。

このような状況から、同窓会では同窓会サポーター制というものを検討しています。これは同窓生がいきなり役員として参加するのではなく、同窓会の役員と情報を共有して意見や要望を述べる場を作ることが目的です。これを手始めとして、同窓会は幾つかの改革案を検討しており、今後も同窓生のニーズに応えられるよう改革を進めていきたいと考えています。

これからも同窓会の活動にご理解とご協力をお願い致します。



### 歴代同窓会会長

1. 鈴木貫太郎（6系1期）（昭和57年3月～昭和60年3月）
2. 西澤 一（3系2期）（昭和60年4月～平成4年3月）
3. 近藤 秀範（2系5期）（平成4年4月～平成13年3月）
4. 後藤 泰男（5系4期）（平成13年4月～）

## 国際学会参加報告

私は2005年9月にハワイ島のヒロで行なわれた、第5回プラズマ応用科学国際シンポジウム（ISAPS '05）に参加しました。ISAPS '05はプラズマ応用科学の分野について5日間にわたって70程度の発表が口頭及びポスターで行なわれ、10を超える国からの参加がありました。

私は「T字状フィルタードアーク蒸着におけるDLC膜成膜速度のダクトバイアスによる影響」と題し、ポスターセッションで発表を行い、海外の研究者の方々からも論文

発表の有無を聞かれるなど興味を持っていただくことができました。また、会議全体を通して今後の研究に生かすことのできる有意義な経験となりました。さらに、会議中に開催されたイベントに参加し、ハワイ島の自然を楽しむこともできました。

最後に、初めての国際経験となった海外渡航の実現に3・4系同窓会国際学会発表奨励金のご援助を頂いたことに深い感謝の意を表します。

（電気・電子工学専攻修士2年 岩崎康浩）

## 帰国留学生同窓会

平成17年12月10日、インドネシア、ベトナム、タイ、バングラデシュ、マレーシアから各1名の元留学生を招き、帰国留学生同窓会設立の準備会が開かれた。

開会の挨拶の後、国際交流室長が同窓会設立の趣旨説明をおこなった。このような事業を進める背景としてひとつには、文部科学省・日本学生支援機構が進める帰国留学生に対する「フォローアップ」事業がある。これは「日本留学の成果を一層高め」、「開発途上国の教育、学術研究及び行政の発展と我が国の学術研究及び国際交流の推進に寄与することを目的とする」ものであり、研究職および行政職に就いている元留学生を対象にしている。本学ではこれに加え、以下のことを目指している。

1. アジア地域における研究者ネットワークを構築する。  
これは中期計画に掲げており、工学教育における国際協力を長期的かつ継続的に実施していくための基盤となるものである。
2. 独自のネットワークを構築して、優秀な留学生を獲得する。
3. 上記のネットワークを、卒業する留学生の就職に活用する。
4. アジア諸国の連帯を推進する。さまざまな国の技術者、研究者が本学、ひいては日本で学んだという共通点を軸に横の連携を持つことは、激化する世界的競争の中で、今後いっそう重要になるだろう。
5. アジアの人びとに、アジアと連携する日本という理解をもってもらうために、本学の専門分野で貢献する。

趣旨説明の後、本学による卒業・修了学生の消息把握の現状を説明した。現在把握できているのは約300名、つまり37.5%に過ぎない。これについては、各国で国内の同窓会を整備してもらい、これを本学でまとめることとした。この点ではインドネシアが先行しており、本準備会の直前、11月に同国の同窓会が設立され、その状況が報告された。

その後に意見交換をおこなった。同窓会設立の趣旨は

十分に理解と賛同を得たが、今回参加したのがインドネシアからの参加者以外はすべて研究者という立場であったため、本学がもっている電子ジャーナルと本学教員の最新研究情報にインターネットを通じてアクセスできるようにして欲しいといった研究支援の要望が強かった。これについては今後、学内で検討していかなければならないが、研究者ネットワークの構築という目的からは最重要課題である。

今後の課題として、帰国留学生は、1. 教員・研究者、2. 公務員、3. 企業に勤める者という3つのカテゴリーにわかれるが、ネットワークの充実のためには、それぞれの代表者が参加するようにしなければならないという意見が出された。さらに、後二者に対し同窓会がどのようなメリットを提供できるか、ということも課題として指摘された。これは今後、同窓生の希望を聞きながら明らかにしていくことになるであろう。

最後に、同窓会をアジア各国で順次開催するとよい、という提案が出され、和気あいあいとした雰囲気の中に閉幕した。来年度は中国、韓国の同窓会を立ち上げる予定をしている。その後、この二つの組織をどのように連携させていくか、十分に検討しながら進めていく必要がある。



## 9. 福利厚生施設

「二十年史」において、大学における福利厚生施設の重要性と、それに対し本学の福利厚生施設がいかに手狭で老朽化しているかが述べられているが、その対策は遅々として進まなかった。

平成15年（'03）5月末に、長らく懸案だった多目的室が新設された。翌年5月には学内から愛称を募り、6月に「ひばりラウンジ」と名づけられた。広さ112平米と62平米の2部屋だが、パーティションをはずしてひとつの部屋としても利用可能である。各種の懇親会や簡便な研究発表会などに広く利用されている。その後、談話室も一部改装され、17年夏には図書館に置かれていた就職資

料室が移設された。

平成15年4月に喫茶室の請負業者が交代し、2年後の17年4月には食堂の業者も交代した。ともに、より充実したメニューになったとして、おおむね好評である。

平成17年の夏休みには、売店も改装された。それまでの薄暗ささえ感じさせた店頭が、明るくモダンなものになって、面目一新といったところだが、この改装も含めて、これまで述べてきたことは抜本的なものとはいえない。真に充実した福利厚生を求めるならば「二十年史」でも述べられているような“大学のシンボル”となるような機能を持った「学生会館」の新設が必要だろう。

### 大学2年生

早いもので1年が経過しようとしています。アツという間の1年で日々追われていたのが現状です。

さて、2年目を迎えるにあたり、学生さんのニーズやボリュームについてようやくコツをつかめてきたところです。学生の皆さん・教職員の方々に喜んでいただけるよう原田店長を中心に頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

また、ご意見等ございましたら気軽に声を掛けてください。  
(厚生会食堂)



厚生会食堂

### リニューアル

大学周辺の発展・活性化に伴い、当売店は気分も新たにアメリカンスタイルで明るい店内にリニューアルしました。現代の学生に合わせ今までにない商品、コーヒーサービスなどが増えました。

これからもより一層満足してもらえる店作りを目指していきたいと思っております。卒業された皆さんもまた遊びにきてください。  
(厚生会売店 明亨)



厚生会売店 明亨

## 夢

めまぐるしく変わる時代の中で、紙とインクでできた「本」という媒体は、廃れることなく続いてまいりました。人間の「もっと知りたい」と思う気持ちもネットなど多くの媒体の登場や扱う情報の増大、その多様さと高速化によってますます大きくなりどまるところを知りません。

そんな中、私共も成績のためだけでなく、知識の渴望を満たすために今後ともお手伝いをさせていただきますのでよろしくお願ひします。皆様のお手元に渡った本が幸せであることを夢見ております。

(精文館書店)



精文館書店

## 年月

私は豊川生まれの豊川育ちです。今では、スッカリ豊橋の人になりました。

豊橋に国立大学が開学することを耳にして早30年、長いようで短いものです。当時は、縁のないものと思っておりましたが、今では一番の身近な大学になりました。大勢の卒業生が社会に出て、それぞれの道で頑張っていることだと思います。

喫茶室では、パスタや学生さんのニーズに合う地元の豊富な食材を使った日替定食で頑張っています。

(喫茶室モーニング)



喫茶室モーニング

## 近道はあるの・・・かな？

その日は3年前の11月、学生はシヨンボリ。

ポツンと「研究がうまくいかない。論文が書けない、早く仕上げないと・・・」と言いながら留年。《研究に近道はないんだナ〜》翌年、頑張って修了しました。今は会社から「国家資格を取りなさい」と言われ見事取得！

千葉から11時間を要してバイクで来店。

若いっていいナァー

(理容室)



理容室